

市では、市内の学校に通う児童・生徒に小諸のことをより知ってもらうため、副読本として「こもろヒストリー」を作製しました。ここでは、その一部を連載してお伝えしていきます。

HISTORY LAST

伝統を未来につなぐ



八朔相撲

小諸藩の初代藩主の仙石秀久が八幡神社を建てたときに始めたといわれています。野岸小学校の隣にある八幡神社の祭りにあわせて、旧暦の8月1日(朔日)に行われていたことから八朔の名がつけられました。江戸時代に活躍した有名な力士「雷電」も子どものころ、この八朔相撲に参加したといわれています。



健速神社の祇園祭

江戸時代には、すでに盛大に行われていたことが記録に残っています。市の重要無形民俗文化財に指定されています。

毎年7月13日に近い日曜日に行われる「暴れ神輿」が中心で、田町、本町、六供一帯を練り歩きます。祇園祭は、悪い病気を退散させることを願って始まったといわれています。



御影新田の道祖神まつり

江戸時代から続いている祭りで、上宿と下宿の山車を互いにぶつけ合います。県の無形民俗文化財に指定されています。



小諸学
KOMORO GAKU

超大作

全12回

私が住むまち

小諸の歴史

K O M O R O
H I S T O R Y
歴史の なかに、 未来の ひみつが 横た わっている

こもろ未来プロジェクトシリーズ